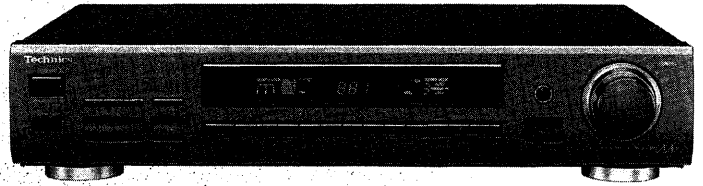


Technics

ステレオ シンセサイザー チューナー

品番 ST-GT550

取扱説明書



- この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電

RQT2117-S

このたびは、ステレオシンセサイザーチューナーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

もくじ

準備

必ずお守りください	3
各部のなまえ	4
接続のしかた	5
アンプとの接続	5
FMアンテナの接続	6
AMアンテナの接続	7

本体操作

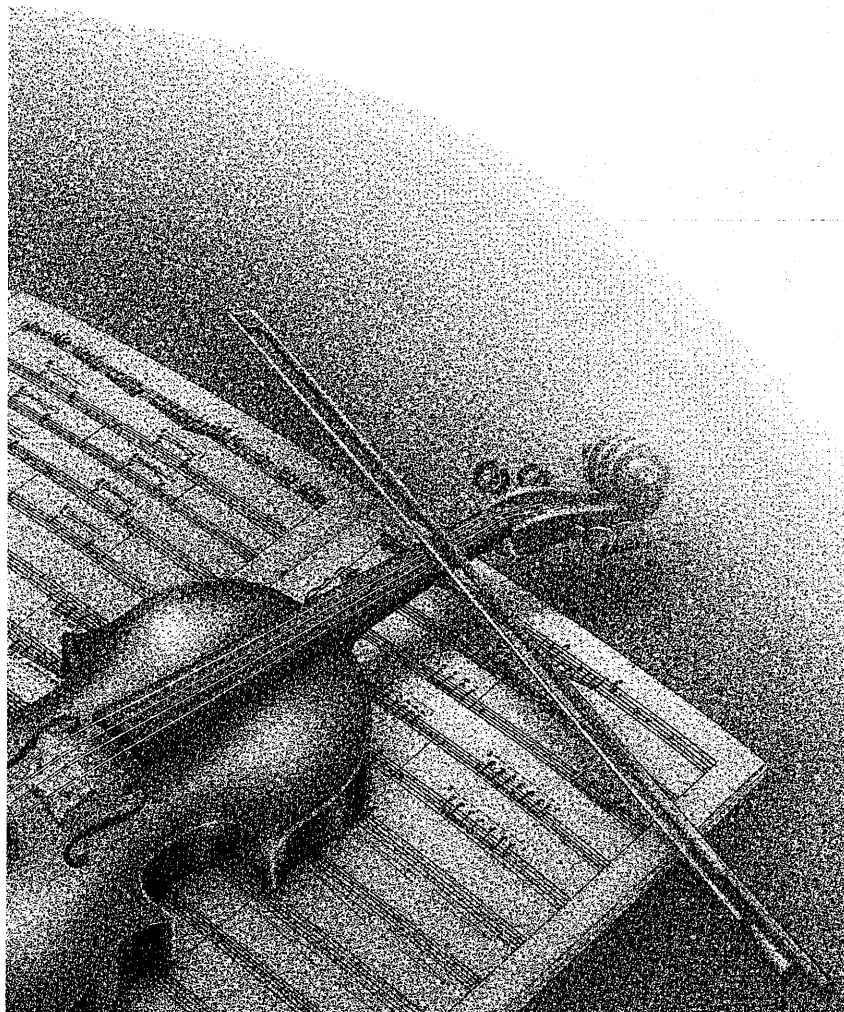
ラジオ放送を聞く	8
ステレオ放送で雑音が多いときは	9
受信放送の信号強度を確かめるには	9
FM放送が混信するときは	9
FM I F帯域を切換えるには	9
放送局をメモリーして聞く	10
オートメモリーをするには	10
マニュアルメモリーをするには	11
メモリーした放送局を呼び出すには	11

リモコン操作

リモコンの準備	12
乾電池の入れかた	12
リモコンの使用範囲	12
リモコンで操作する	13

参考

定 格	14
お手入れ	14
故障かな!?	15
アフターサービスについて	裏表紙



必ずお守りください

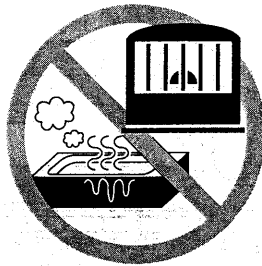
電源は、AC (交流) 100V で



電源コードは正しく取り扱ってください。
取り扱いを誤ると危険です。

- プラグを持つ
- ぬれた手でさわらない
- 重いものを載せない
- 無理に曲げない

設置は安定した、風通しのよい所に



故障の原因になりますので、次のようなところは、避けてください。

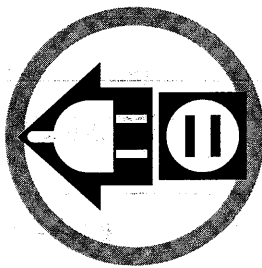
- 湿気の多い所
- 倉庫などほこりの多い所
- 直射日光が当たる所など温度が高い所

加工・改造・異物の挿入はしない



感電や故障の原因になります。特にお子様にはご注意ください。

長期間使用しないときは



思わぬ事故を避けるため、電源コードをコンセントから抜いておいてください。
(ただし、1ヶ月以上通電がない場合は、メモリー内容が消えますのでご注意ください。)(11 ページ)

水・薬品はかからないように



引火、火災や感電の恐れがあります。
また、本機の上に可燃性ガスの入ったヘアースプレーなどを置かないでください。

万一、故障が起きたら



電源コードを抜き、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

音のエチケット

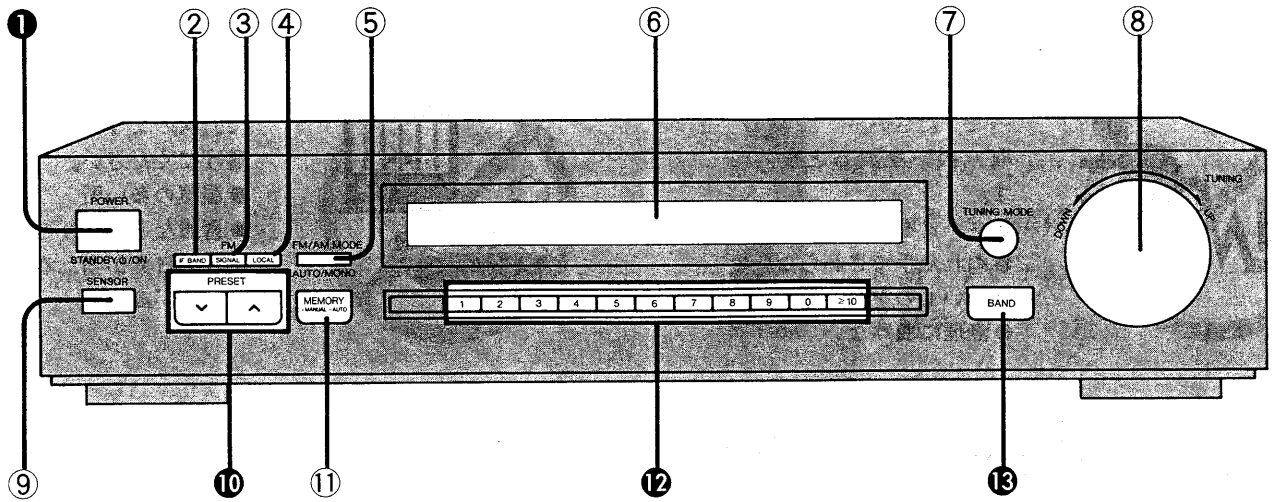
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

各部のなまえ

準備



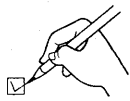
白抜き数字 (① など) のボタンは、リモコンにもあります。

番号	なまえ	参照ページ
①	*POWER (電源) ボタン	8
②	IF BAND (FM 中間周波帯域切換) ボタン	9
③	SIGNAL (FM 信号強度表示) ボタン	9
④	LOCAL (FM ローカル切換) ボタン	9
⑤	FM/AM MODE (FM/AM 音声モード切換) ボタン	9
⑥	ディスプレイ部	
⑦	TUNING MODE (選局モード切換) ボタン	8

番号	なまえ	参照ページ
⑧	TUNING (選局) つまみ	8
⑨	SENSOR (リモコン受光部)	12
⑩	PRESET (プリセットチャンネル) ボタン	10、11
⑪	MEMORY (記憶) ボタン	10、11
⑫	数字ボタン	11
⑬	BAND (バンド切換) ボタン	8

*POWER ボタンの ^{スタンバイ}STANDBY 表示について：
本機はメモリーのバックアップやリモコンでのパワー入/切操作のため、電源を切った後も微量の電力消費が行われています。(STANDBY 状態)

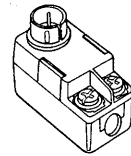
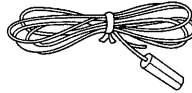
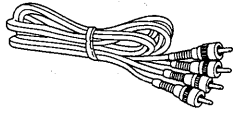
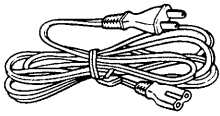
接続のしかた



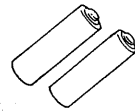
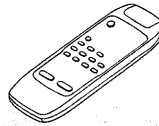
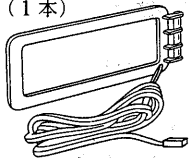
付属品

接続の前に付属品を確認してください。

- 電源コード (1本)
- ステレオピンコード (1本)
- FM 簡易型アンテナ (1本)
- 同軸プラグ (1個)



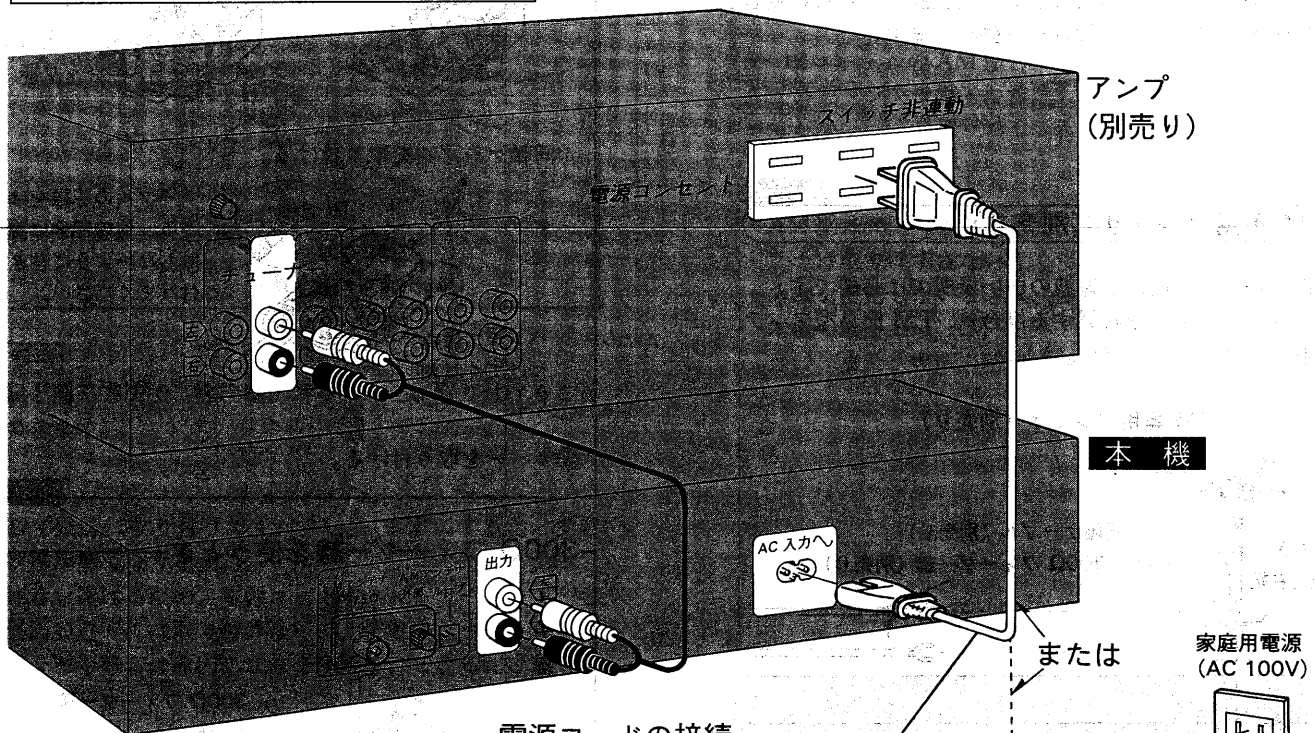
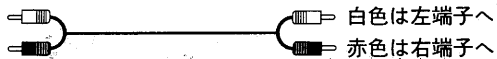
- AM ループアンテナセット
AM ループアンテナ (1本)
- AM ループアンテナ 取り付けホルダー (1個)
- AM ループアンテナ 取り付けねじ (2本)
- リモコン発信機 (1個) (RAK-ST106WH)
- リモコン用乾電池 単四形 (2個)



準備

アンプとの接続

ステレオピンコードの接続は



電源コードの接続

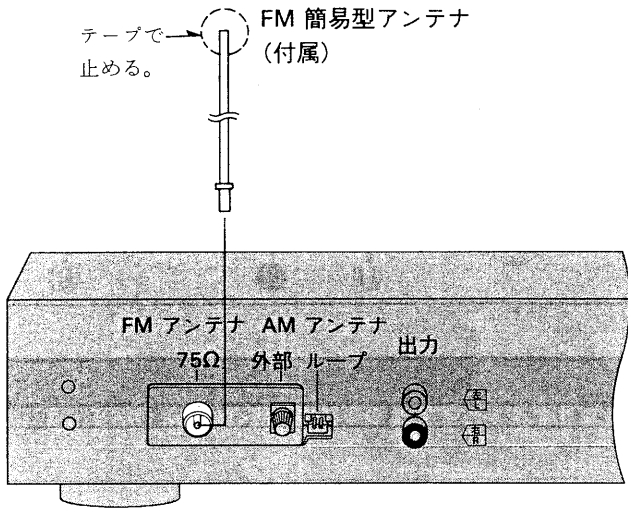
(アンテナなど他の接続が終わってから行ってください。)

放送局のメモリーを消さないために、アンプの電源コンセントの「スイッチ非連動」、またはご家庭の電源コンセント (AC 100V) に接続して下さい。

FM アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ (付属)

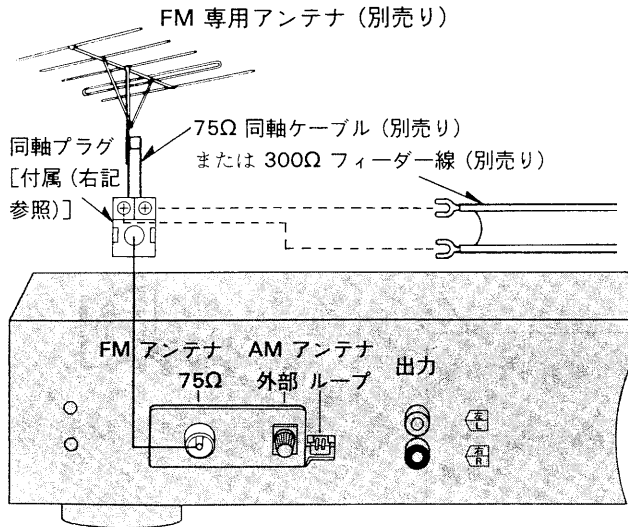
信号受信強度が最大になるような高さや方向を探し、テープで壁や柱などに取り付けてください (9 ページの「受信放送の信号強度を確かめるには」ご参照)。



FM 簡易型アンテナで満足できる受信状態にならない場合は、FM 専用アンテナの設置をお勧めします。

FM 専用アンテナ (別売り)

山間部や鉄筋ビル内など電波の弱い場所では必要です。(FM 専用アンテナを設置する場合は、FM 簡易型アンテナを取りはずしてください。)



■同軸プラグ (付属) の使いかた

FM 専用アンテナを接続するときには使用します。接続するアンテナ線は、75Ω 同軸ケーブルまたは 300Ω フィーダー線を使ってください。(アンテナ線は、外部からの妨害雑音に強い75Ω同軸ケーブルをお勧めします。)

75Ω 同軸ケーブルを使うとき

①表皮をむき、網線を折り返して、芯線を出す。

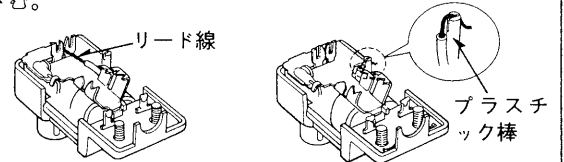


②ツメ部を広げながらカバーを外す。

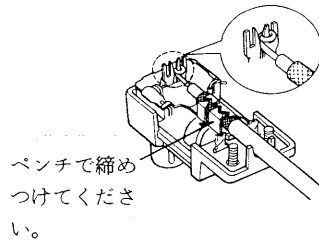
ご注意 ツメ部は無理に広げないでください。



③プラグ内のリード線ははずし、プラスチック棒にはさむ。



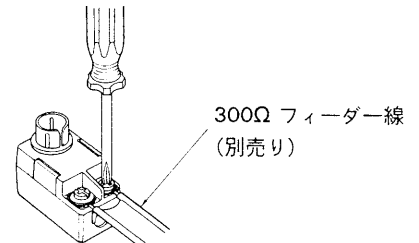
④同軸ケーブルを取り付ける。



ケーブルの芯線はさみ、他の部分に接触しないように巻き付けてください。

⑤カバーを取り付ける。

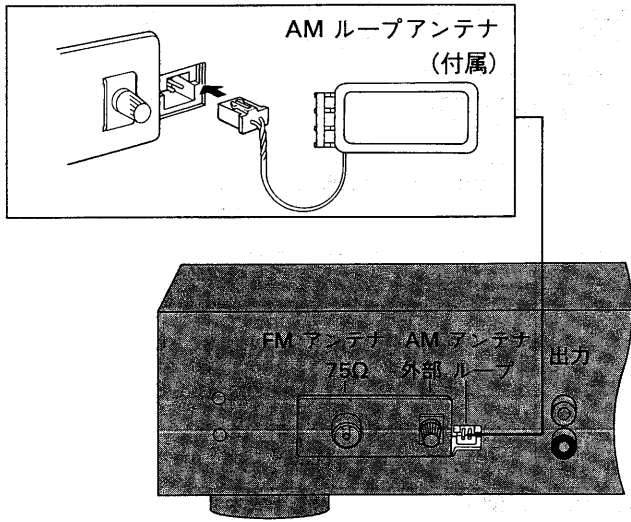
300Ω フィーダー線を使うとき



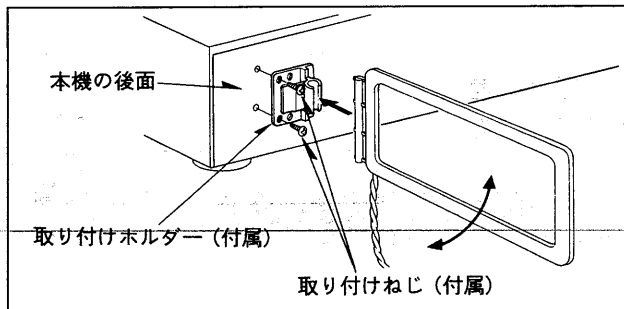
ねじをゆるめてフィーダー線を差し込み、はずれないようにしっかりと締めつけてください。

AM アンテナの接続

AM ループアンテナ (付属)



接続した後は、付属のホルダーとねじを使って、本機の後面に垂直に取り付けてください。



ご参考

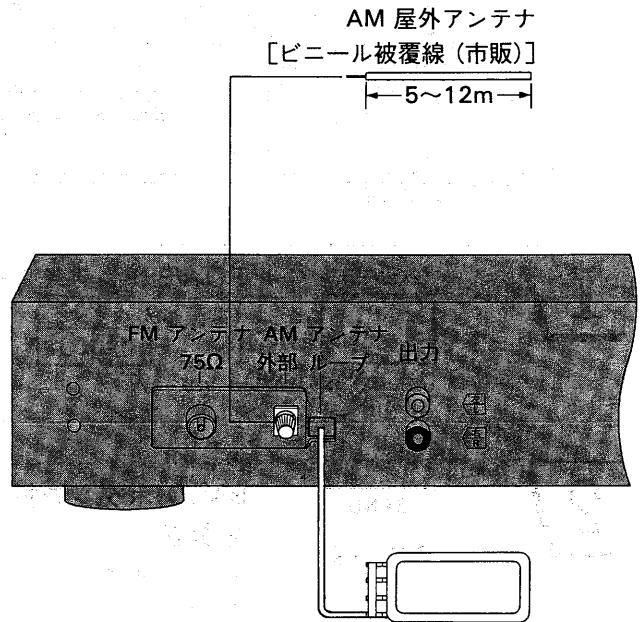
上記と同じ方法で、柱、壁、ラックなどに取り付けることができます。

ご注意

- 必ず垂直に取り付けてください。(水平にすると、受信状態が悪くなります。)
- 雑音を避けるため、電源コードやスピーカーコード、金属面の近くには取り付けないでください。また、テープデッキも雑音の原因になりますので、できるだけ離してください。

AM 屋外アンテナ (市販)

山間部や鉄筋ビル内など電波の弱い場所では必要です。



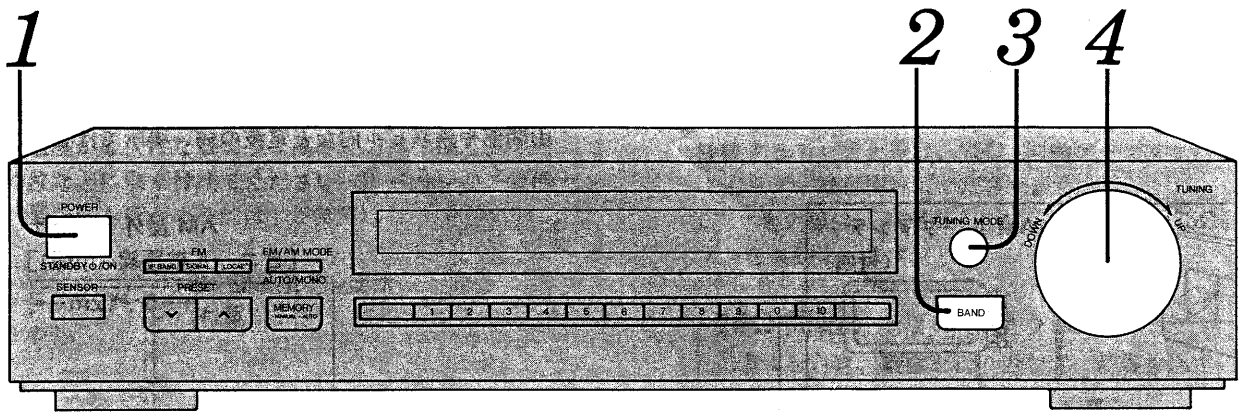
5~12メートルのAM屋外アンテナ(ビニール被覆線)を、AM外部アンテナ端子に接続し、窓際などに水平に設置してください。

ご注意

- AM屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは取りはずさないでください。
- 本機を使用しないときは、雷による損傷を防ぐために、本機の端子からAM屋外アンテナを取りはずしてください。また、雷雨の時は絶対に接続しないでください。

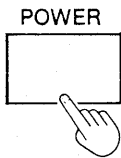
ラジオ放送を聞く

本機では、AMステレオ放送も聞くことができます。



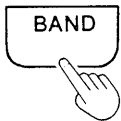
本体操作

1

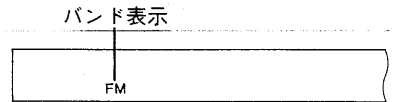


POWER ボタンを押す
(電源が入ります。)

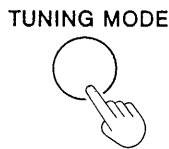
2



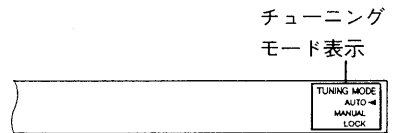
BAND ボタンを押し、「FM」または「AM」を選ぶ
ボタンを押すたびに、バンド表示が次のように切り替わります。FM ⇄ AM



3

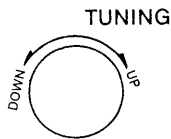


TUNING MODE ボタンを押し、好みの選局方法（「AUTO」または「MANUAL」）を選ぶ
ボタンを押すたびに、チューニングモード表示の◀マークの位置が次のように切り替わります。
AUTO → MANUAL → LOCK

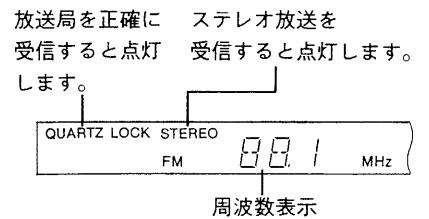


AUTO: 手順4でオート選局をするとき
MANUAL: 手順4でマニュアル選局をするとき

4



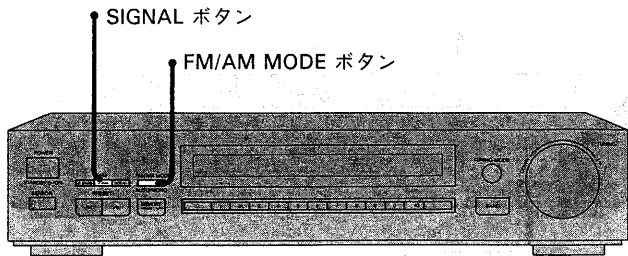
TUNING つまみを回し、選局する
DOWN : 周波数が低くなります。
UP : 周波数が高くなります。
オート選局 (手順3で「AUTO」を選んだとき)
つまみを回すと周波数が変化し始め、受信状態のよい放送局が見つかったら自動的に止まります。
マニュアル選局 (手順3で「MANUAL」を選んだとき)
つまみを回した分だけ周波数が変化します。



放送局を正確に受信すると点灯します。ステレオ放送を受信すると点灯します。

注：AMステレオ放送を実施していない放送局もあります。

■受信中の放送局を固定するには
TUNING MODE ボタンを押し、「LOCK」を選んでください。(上記手順3ご参照。)
TUNING つまみを回しても、周波数が変化しなくなります。



ステレオ放送で雑音が多いときは

FM/AM MODE FM/AM MODE ボタンを押す
 (MONO 表示が点灯し、モノラル受信に切り替わります。)

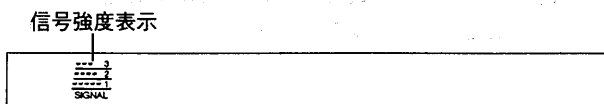
点灯
 MONO

モノラル受信にするとステレオ効果はなくなりますが、雑音が減り聞きやすくなります。

- ご参考**
- 本機は通常 AUTO モードにあり、ステレオとモノラルを自動的に判別しています。
 - TUNING つまみを回して周波数が変わったときは、モードに戻ります。

受信放送の信号強度を確かめるには

■信号強度表示の見かた
 受信している FM または AM 放送の信号強度が目安として表示されます。下から上 (1 から 3) へ点灯が増えるほど、強い信号を表わしています。



■FM 放送の受信信号強度をデシベル値で表示させるには

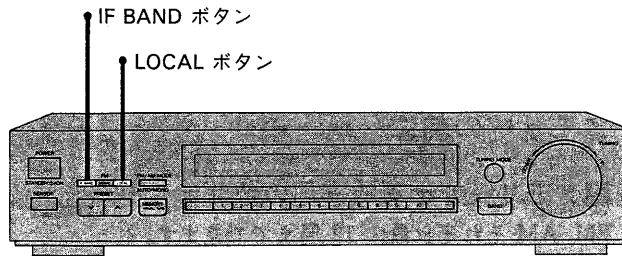
SIGNAL SIGNAL ボタンを押す
 (周波数表示が信号強度表示に変わります。)

FM 信号強度表示

50dB

元の周波数表示に戻すには、ボタンをもう一度押してください。

- ご参考**
- TUNING つまみを回して周波数が変わったときは、自動的に周波数表示に戻ります。



FM 放送が混信するときは

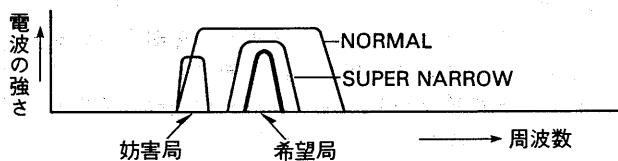
LOCAL LOCAL ボタンを押す
 (LOCAL 表示が点灯します。)

点灯
 LOCAL

受信電波が強過ぎると混信することがあります。ボタンを押すと、受信電波は弱くなりますが、混信は少なくなります。

FM IF 帯域を切替えるには

本機は、FM 放送局を受信したときに妨害電波が多い場合、IF (中間周波) 帯域を NORMAL (ノーマル) から SUPER NARROW (スーパーナロー) に自動的に切替え、妨害電波を除去します。



■手動で切替えるには
 以下の操作は、FM IF 帯域を好みに応じて切替えたいとき行ってください。

IF BAND IF BAND ボタンを押す
 (IF バンド表示が、次のように切り替わります。)

NORMAL SUPER NARROW

本
体
操
作

放送局をメモリーして聞く

放送局を本機のプリセットチャンネルにメモリー（記憶）しておけば、後はボタンを押すだけで好みの放送局を簡単に選べます。（右ページの「メモリーした放送局を呼び出すには」ご参照。）

メモリーの前に

■メモリーできる放送局の数は

FM, AM それぞれ最大 12 局までできます。

プリセットチャンネル

FM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
AM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

■メモリーする方法は

次の 2 つの方法があります。

1) オートメモリー

メモリーボタンを一度押すだけで、低い周波数から高い周波数へ順に、放送局が自動でメモリーされます。

注：放送局の電波が弱い場合、自動でメモリーできないことがあります。この場合は下記のマニュアルメモリーを行ってください。

2) マニュアルメモリー

好みの放送局を好みのチャンネルにメモリーすることができます。

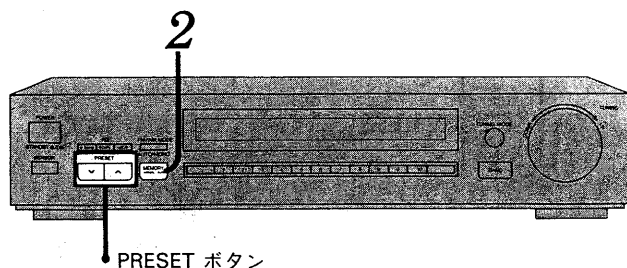
■ご注意

すでにメモリーされているプリセットチャンネルにもう一度メモリーすると、先にメモリーされている放送局は取り消されます。

■ご参考

オートメモリーとマニュアルメモリーを組み合わせることもできます。この場合には、先にオートメモリーを行い、その後空白のチャンネルや放送局を変更したいチャンネルにマニュアルメモリーを行ってください。

オートメモリーをするには



1/

「FM」または「AM」を選び、一番低い周波数にセットする
(8 ページの手順 1~4 ご参照。)

FM: 76.0 MHz

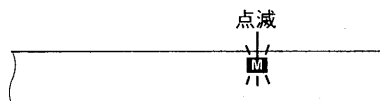
AM: 522 kHz

2/



MEMORY ボタンを押し続け、周波数が変化し始めたから離す

(M 表示が点滅し、オートメモリーが始まります。点滅が止まるとメモリー完了です。)



- 放送局が少ない地域では、オートメモリーされずに残ったチャンネルは空白のままです。空白を埋めたいときは、マニュアルメモリーを行ってください。
- AM 放送局の信号が極度に強い場合は、メモリーされた周波数が実際の周波数とわずかに異なることがあります。そのときは、マニュアルメモリーを行ってください。

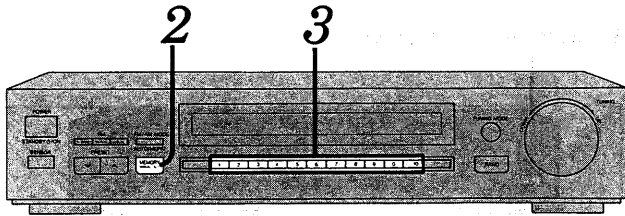
■メモリーされた放送局を確認するには

PRESET ボタンを押してください。



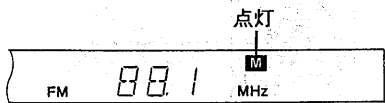
ボタンを押すたびに、チャンネル数字とメモリーされた周波数が表示されます。

マニュアルメモリーをするには

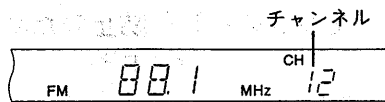
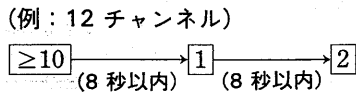


1 「FM」または「AM」を選び、好みの放送局にセットする
(8 ページの手順 1~4 ご参照。)

2 MEMORY ボタンをポンと押す
(M 表示が点灯します。)



3 数字ボタンを押し、メモリーするチャンネルを選ぶ
1~9 のチャンネルを選ぶには:
1 ~ 9 を押す。
10~12 のチャンネルを選ぶには:
≥10 の後、チャンネル数字を押す。



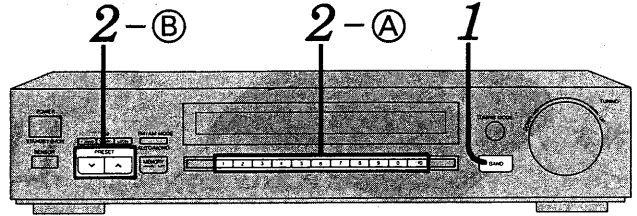
4 上記手順 1~3 を繰り返し、好みの放送局をメモリーしていく

■放送局に雑音や混信が多いときは

FM/AM MODE ボタン (9 ページ) または LOCAL ボタン (9 ページ) を押すことで、雑音や混信の少ない状態でメモリーすることができます。(マニュアルメモリーのみ。)

操作は、上記手順 1 と 2 の間で行ってください。

メモリーした放送局を呼び出すには

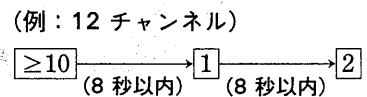


1 BAND ボタンを押し、「FM」または「AM」を選ぶ
バンド表示



2 ① チャンネルを直接選ぶには

数字ボタンを押す
1~9 チャンネルを選ぶには:
1 ~ 9 を押す。
10~12 チャンネルを選ぶには:
≥10 の後、チャンネル数字を押す。



② チャンネルを順送りを選ぶには

PRESET ボタンを押す
V : 下のチャンネルへ
^ : 上のチャンネルへ

ボタンを押し続けると、チャンネルが連続的に変わります。

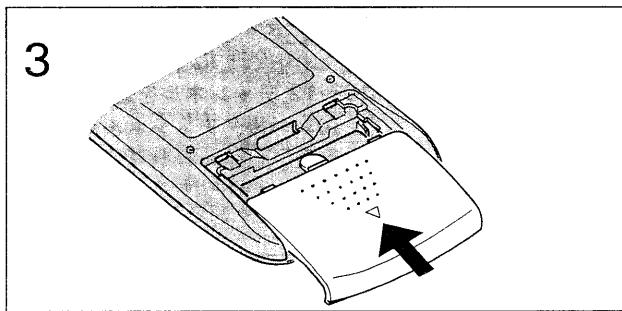
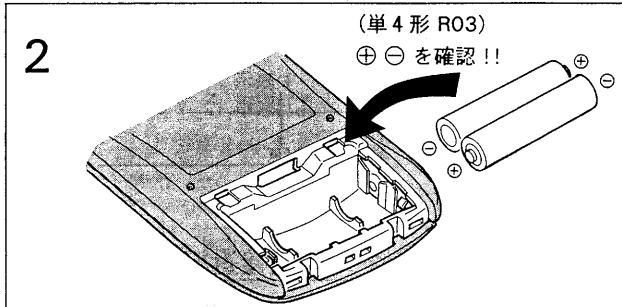
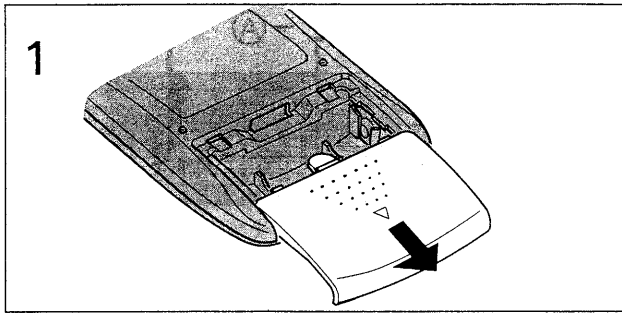
■メモリーのバックアップについて

本機はメモリーを保持するため、電源を切った後も微量の電力消費が行われています。また、電源コンセントを抜くなどして通電が止まった後も、約1ヶ月はメモリーを保持する機能があります。

もし長期間通電が止まり、メモリー内容が消えた場合は、もう一度メモリーを行ってください。(このときは、最低1時間程度、電源を入れたままにしておいてください。)

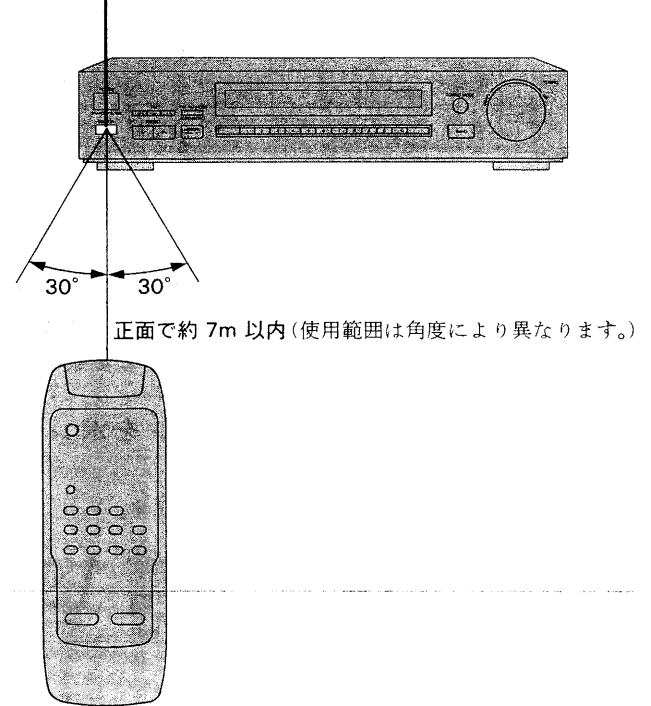
リモコンの準備

乾電池の入れかた



リモコンの使用範囲

SENSOR (リモコン受光部)



ご注意

- リモコン受光部とリモコンの間に障害物は置かない。
- リモコン受光部とリモコン先端のほりに注意。
- ラックに入れて使用する場合、ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作距離が短くなる場合があります。

乾電池の破損・液漏れ防止のために

- 新旧・異種の乾電池は混用しない。
- +プラスと-マイナスは正しく入れる。
- 充電をしない。
- 長時間使用しないときは、乾電池を取り出しておく。
- 火の中への投入や、ショート、分解、加熱などはしない。

乾電池の交換時期

- 寿命は約1年です。
- リモコンを本体の近くで操作しても働かないときは、交換してください。

リモコンの誤動作防止のために

リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。

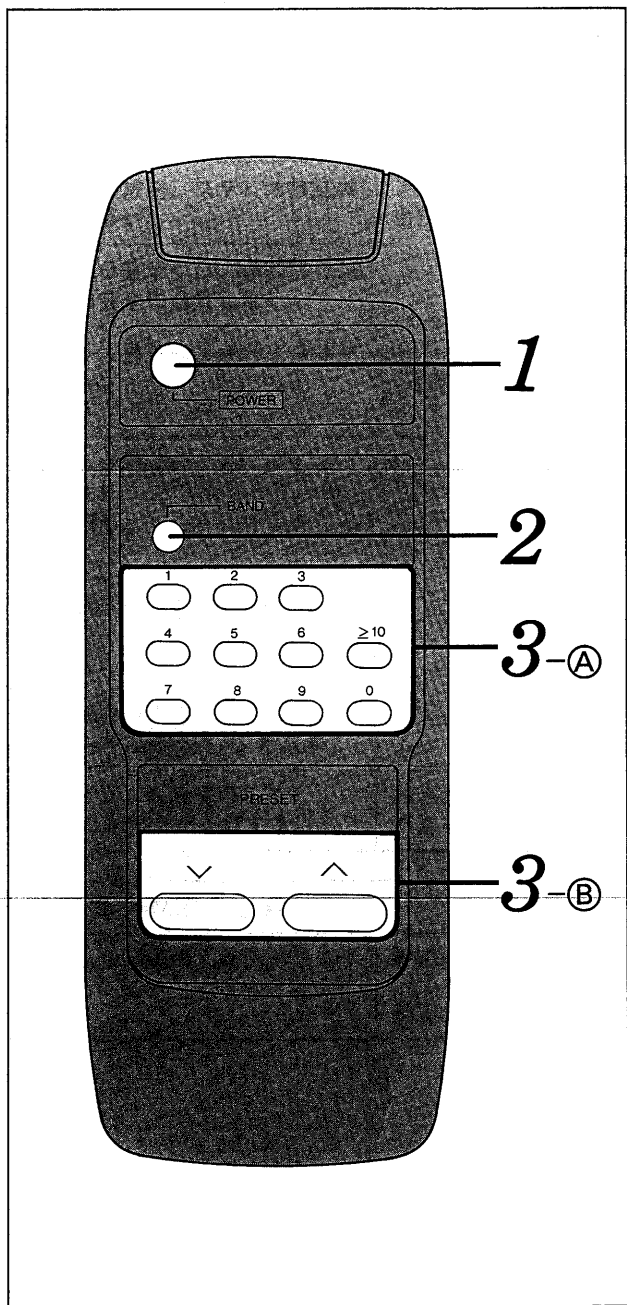
リモコンの故障防止のために

- 分解、改造をしない。
- 重いものを載せない。
- 直射日光の当たる所に放置しない。
- ジュースなど液状のものをこぼさない。

リモコンで操作する

準備

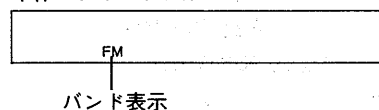
本体のプリセットチャンネルに、放送局を必ずメモリーしておいてください。(10~11 ページ)



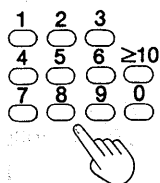
1 POWER ボタンを押し、本体の電源を入れる

2 BAND ボタンを押し、「FM」または「AM」を選ぶ

本体のディスプレイ



3 (A) チャンネルを直接選ぶには



数字ボタンを押す

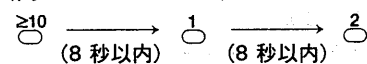
1~9 チャンネルを選ぶには：

1 ~ 9 を押す。

10~12 チャンネルを選ぶには：

≥ 10 の後、チャンネル数字を押す。

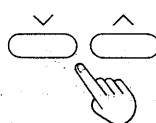
(例：12 チャンネル)



(B) チャンネルを順送りで選ぶには

PRESET

PRESET ボタンを押す



▽ : 下のチャンネルへ

△ : 上のチャンネルへ

ボタンを押し続けると、チャンネルが連続的に変わります。

定格

■ F M チューナー部

受信周波数帯	76.0~90.0 MHz (0.1 MHz ステップ)
実用感度	14.8 dBf (1.5 μ V, IHF' 58)
50 dB S/N 感度	
MONO	18.1 dBf (2.2 μ V, IHF' 58)
STEREO	39.2 dBf (25 μ V, IHF' 58)
全高調波ひずみ率	
MONO	0.15 %
STEREO	0.2 %
SN比	
MONO	78 dB
STEREO	72 dB
周波数特性	10 Hz~15 kHz, +0.5~-1.0 dB
実効選択度	
NORMAL \pm 400 kHz	70 dB
SUPER NARROW \pm 200 kHz	25 dB
キャプチャレシオ	1.2 dB
イメージ妨害比 (83 MHz)	50 dB
I F 妨害比 (83 MHz)	60 dB
AMサプレッション	55 dB
ステレオセパレーション	
1 kHz	45 dB
リークキャリア	
19 kHz	-68 dB
アンテナ端子	75 Ω (不平衡型)

■ A M チューナー部

受信周波数帯	522~1629 kHz (9 kHz ステップ)
実用感度 (SN 比 20 dB)	20 μ V, 600 μ V/m
選択度 (\pm 9 kHz)	40 dB
イメージ妨害比	40 dB (999 kHz)
I F 妨害比	50 dB (999 kHz)
ステレオセパレーション	
1 kHz	20 dB (999 kHz)

■ 総合

出力電圧	0.6 V
消費電力	9 W
	2.5 W (電源オフ時)
電源	AC 100 V, 50/60 Hz
寸法 (幅×高さ×奥行)	430×91.5×308 mm
重量	2.9 kg

注) 1. この定格は、性能向上のため変更することがあります。

2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる10次高調波までの総和です。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水か石けん水を含ませた布でふき、後は空ぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その説明をご覧ください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	主な原因	処置
ラジオ放送を聞いているとき		
数字ボタンや PRESET ボタンで選局できない。	放送局がメモリーされていない。	放送局をメモリーする。 (☞ 10~11 ページ)
モノラル放送、ステレオ放送共雑音が多い。	アンテナの設置場所や向きが不適當。または送信所が遠い。	<ul style="list-style-type: none"> • アンテナの設置場所や、高さ、向きを変える。 • FM 専用アンテナや AM 屋外アンテナを使用してみる。 • 素子数の多いアンテナに替える。
STEREO 表示や QUARTZ LOCK 表示が完全に点灯しない。		
ステレオ放送のとき音にひずみが多い。	近くにビルや山がある。〔送信所からの電波(直接波)とビルや山に反射した電波(反射波)との干渉により、ひずみが生じる〕	
ステレオ放送のとき、モノラル放送に比べ、「サー」という雑音が出る。	ステレオ電波はモノラル電波に比べ、ノイズが出やすい。	<ul style="list-style-type: none"> • アンプの高音調整を使って、高音部を下げてみる。 • FM/AM MODE ボタンを押し、モノラル受信にする。(☞ 9 ページ)
AM 放送のとき「ピーピー、チーチー」という音(ビート音)が入る。	テレビや CD プレーヤー、レコードプレーヤーなどと同時に使用している。	各機器との距離を十分離すか、それらの電源を切る。
AM 放送のとき「ブーン」という低い音(同調ハム)が入る。	AM ループアンテナが電源コードやスピーカーコードに近い。	アンテナとコードを離す。
AM モノラル放送のとき、STEREO 表示が点灯する。	雑音などの原因により、誤って点灯することがある。	FM/AM MODE ボタンを押し、モノラル受信にする。(☞ 9 ページ)
リモコン使用のとき		
リモコンが動作しない。	乾電池の (+)(-) が逆に入っている。	(+)(-) を正しく入れる。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池と交換する。

参考

アフターサービスについて

■保証書（別に添付してあります。）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間 —— お買い上げ日から1年間

■修理を依頼される時

15 ページの「故障かな!？」に従って調べていただき、直らないときには必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が出張修理をさせていただきます。お買い上げの販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「お客様ご相談センター」(別紙)にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所・ご氏名・電話番号
- 製品名・品番・お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日

●保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店へご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理をさせていただきます。販売店にご依頼にならない場合には、お近くの「お客様ご相談センター」(別紙)にご連絡ください。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

■アフターサービスなどについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または、お近くの「お客様ご相談センター」(別紙)にお問い合わせください。



この取扱説明書の印刷には、植物性大豆インキを使用しています。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎ () —	お近くの当社 ご相談センター	☎ () —	お買い上げ日	年 月 日
				品 番	ST-GT550

松下電器産業株式会社 オーディオ事業部

〒571-8505 大阪府門真市松生町1番4号

RQT2117-S

H0793G1048